

週刊センターニュース No.215



第215号(2008年7月14日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第190回共同学習会のご案内

日時: 7月17日(木) 16:30~18:00

会場: 角間キャンパス総合教育1号館南棟2階大会議室

発表者: 渡辺 達雄(大学教育開発・支援センター)

テーマ: 「学士課程教育の構築に向けて 審議のまとめ -」(中央教育審議会大学分科会制度・教育部会、平成20年3月25日発表)を読む

概要: 先に、国際的に魅力ある大学院教育構築に向け「新時代の大学院教育」(平成17年9月)および「大学院教育振興施策要綱」(平成18年3月)の各答申が出されたが、その基盤として質の高い学士課程教育を実現することが重要な課題である。こうした認識に立ち、改革の基本方向および具体的な方策について提言を行っている上記の審議報告書を、参加者とともに読み、理解を深めたいと思います。

「New Education Expo 2008 in 大阪」参加報告

6月18日、19日に大阪で開催されたNew Education Expo 2008に参加した。参加したセミナーのうち「大学におけるFDの取り組み最新事例」に関して報告する。「大学におけるFDの取り組み最新事例」では同志社大学の山田礼子氏と京都大学の犬塚雄作氏による講演が行われた。

山田氏は「学士課程教育と初年次教育」というテーマで、初年次教育について、最初に導入が始まったアメリカでの事例と、日本の大学の導入状況を紹介した後比較が行われた。アメリカではブランド力のある有名大学で初年次教育をカリキュラム内で行われている例が少ないようだ。しかし日本の大学ではアメリカよりも導入が遅いが、ここ数年で一気に導入が進み、殆どの大学で何らかの初年次教育が行われている。大学をより教育を重視する場へと変革させるような文科省の政策の存在がこの背景にあるが、ただ導入するだけでは改善効果はあまり望めない。今後の課題としては各大学のアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを明示しなければいけないことがあげられていた。日本では初年次教育の急速な普及により、その概念が整理されておらず、認識も様々で、どのような内容が効果的か不透明である。しかし初年次教育は今まで以上に学士課程の一貫としての位置づけの必要性が増してくるため、即効性のある部分として中退・留年の減少を目指すという大学の経営的視点をより明確にする必要がある。それぞれの大学の特性に合った初年次教育を行い、教育的効果をあげるためにそれぞれのポリシーを明確にしなければならないのである。また、教育効果という部分を今後の指針とし、大学経営へと反映させるために、こうしたカリキュラムの効果をデータとして分析を行う専門的人員としてIR(Institutional Researcher)人員が必要であると報告されていた。日本でこれを行っているところは殆どなく、学部の壁などによってなかなか広報・マーケティングに利用していくのは難しいようである。

次の京都大学の犬塚氏による講演は『FD義務化時代を切り拓く「共に創るFD」への挑戦』というテーマで、授業に即したFDに関しての報告がメインであった。実際の取り組みの結果からFDへの意識の持ち方、実質的で組織的なFDをどう追及していくかという点に焦点があてられた報告であった。FDに取り組む中で様々なデータが出てくるが、データの見方を柔軟にとらえていかなければ、数値目標の絶対的達成を目指すあまり、かえって教職員の授業改善の共同体を崩壊させ、組織的FDにならなくなる危険が生じる。当初の目標評価システムが絶対ではなく、時代によって中期目標を変

えていくべきであり、そうすることで疲れない評価、改善につながる元気になる評価へと変化することができる。組織的 FD とは、「個」を繋ぐ取組、それを「FD」として共有することと捉えるのが疲弊せず効果を上げる方法であると主張されていた。

本学では今年度より FD・ICT 教育推進室が設置され、ポータルの使用と連動して「個」を繋ぐ取組をおこない、さらにはマーケティングにも活用できるような調査分析等を行う環境を整えつつある。山田氏の報告であげられていた初年次教育に関しても、本学では大方取り組まれており、両氏の報告にあった内容を全国でも具体的に実践できている全国でも数少ない大学であると言える。各教職員の協力のもと、今後の活動の充実を図っていきたい。(文責：大学教育開発・支援センター 鎌田 康裕)

理系専門英語に関連するセミナーのご案内

以下の通り、工学系、医学系の専門英語およびその教育に関するセミナーが開催されます。大学院における英語教育開発について有益な知見が得られることが期待できます。

日本 ESP 協会と NPO 法人日本メディカルライター協会との第 1 回ジョイント・セミナー

「国際競争力を高めるための英語とライティング能力を考える」

日時：2008 年 7 月 26 日(土) 講演・パネルディスカッション 12:30 - 18:00

会場：工学院大学新宿キャンパス 3 階アーバン・テック・ホール

(<http://www.kogakuin.ac.jp/map/shinjuku/index.html>)

【主な講演】

「国際的英語力涵養の重要性」 吉川 弘之(元東京大学総長、日本 ESP 協会特別顧問)

「工学系英語検定について」 興野 登(日本工業英語協会日本科学技術英語教育センター長)

「工学系大学院の英語テクニカル・ライティング教育について」

小野 義正(東京大学大学院工学系研究科工学教育推進機構特任教授)

「製薬企業の臨床開発職における英語研修の現状」

藤居 靖久(ノバルティスファーマ株式会社 開発業務・研修部部長)

【問合せ先】

日本 ESP 協会： E メール info@jacet.org または 電話 090-3132-8092 (寺内)

前期「角間ランチョンセミナー」「モーニングセミナー」終了

平成 20 年度前期の「角間ランチョンセミナー」および「モーニングセミナー」は、先週をもちまして、全ての日程を無事に終えることができました。「ランチョンセミナー」は、4 月 10 日より毎日開催し延べ 64 回、また今年度より試みを始めました「モーニングセミナー」を 5 回開催いたしました。両セミナーに参加して下さいました皆さん、そして、何より様々なテーマの下、ご報告をして下さいました学生・教職員の方々、テーマ企画に快く応じていただきました各部局の方々に対し、心から感謝申し上げます。

後期の角間ランチョンセミナーは、随時開催の予定です。部活動・サークルにおける日頃の活動成果を発表したり、卒論等の研究発表の場としても活用できます。詳しいことは、下記までお気軽にどうぞ。皆様の積極的な参加をお待ちしております。今後とも宜しくお願い致します。

お問合せ：大学教育開発・支援センター(担当：渡辺)

TEL:076-264-5793、5837 Email: tatsuodesu@ge.kanazawa-u.ac.jp

「アカンサスFD」について

アカンサスポータル内に、「アカンサスFD」を掲載中です。【会議室】機能には、FDに関わる各種報道資料や学会報告資料を掲載し、【解説】機能では、学内外のセミナー・シンポジウム情報を提供する「FDカレンダー」～(本年度12月まで参照可能。随時更新)、等を開設しています。是非ご利用下さい。